

第 IV 章 理解力の育成を中心とした取り組み

1 「おはなし」(国語科)でのことばの指導(低・中・高学年)

(1) 「おはなし」の時間にねらうもの

本学級では一週間を通して毎朝一時間目に三クラス合同の学習を継続しており、そのうちの1時間を「おはなし」の時間として設定している。「おはなし」は教育課程上では国語科として編成されているが、全員が集まって一日のスタートをきるための朝のつどいの場としての性格が強い。「おはなし」の時間の主な活動は、いろいろなおはなし(絵本、紙しばい、スライド等)を視聴して楽しむことである。楽しかったという思いを味わわせることが、「今度はどんなおはなしかな」という期待につながる。そして、楽しい経験の積み重ねが「もっといろいろなおはなしを視聴したい」という意欲につながっていくと考える。「おはなし」の時間に指導者がねらっているものを子どもの姿でとらえるならば、一時間のうちにおいては「今日のおはなしもう一度聴きたいな(読みたいな)」という姿であり、日常生活においては「いろいろなおはなしに親しむ(積極的に聴いたり読んだりして楽しむ)」姿である。

また、おはなしの視聴を繰り返すことで、視聴態度を育てる、豊かな情操を養う、ことばを理解する力や表現する力を伸ばすこともねらっている。

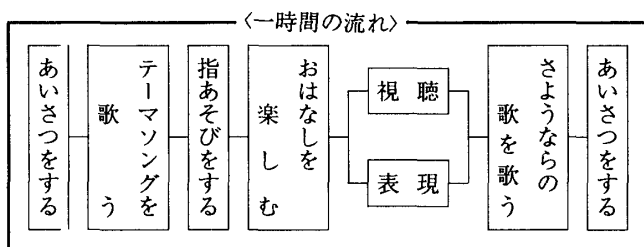
(2) 指導の実際

①児童の実態

本学級には現在16名の児童が在籍している。右の表は絵本に対する視聴態度の実態をまとめたものである。表からわかるように児童の実態にはかなりの幅がある。

②指導の手だて

「おはなし」の時間の流れを下の図のように決めて行なっている。毎時間同じ流れで学習することにより、児童は次の活動を予測することができるようになり、落ち着いて学習に取り組むようになった。学習の流れに沿って、具体的な指導の手だてとそれに関する簡単な考察を述べてみる。



〈表1〉 絵本の視聴態度に関する実態

実 態	4 月	現在(12月)
1.絵本に興味を示さない。	⑦	
2.よく知っているものがでてくると、それに反応する。	⑥ ⑫	⑦ ⑫
3.絵本にでてくる身近なものや登場人物などを興味を持って見る。	① ② ⑨ ⑬ ⑭ ⑯	⑥ ⑬
4.絵本の中のおもしろい場面を喜んで見る。	④ ⑤ ⑧ ⑮	② ⑨ ⑯
5.簡単な絵本を場面をおいながら見る。		① ④ ⑤ ⑧ ⑮
6.絵本を読んで楽しむ。	⑩	⑭
7.いろいろな絵本を読もうとする。	⑪	⑬
8.いろいろな絵本を読んで楽しむ。		⑩

○…あまり変化がみられない児童

◎…大きな変化がみられた児童

ア. テーマソングの設定により、学習意欲を喚起する。

テレビ番組のテーマソングのように「おはなし」の時間のテーマソングを設定すれば、「おはなし」の時間に対する親しみもわき、それを歌うことによって学習への態勢づくりもできると考えた。児童はこのテーマソングをすぐに覚え、歌いながら「今日のおはなし何かな……」と楽しみにする様子がみられるようになった。歌詞の一部である「どっちかな?」とか「こわ

いおはなし」という言葉を使って、指導者にその日のおはなしのことを尋ねる児童もいた。テーマソングを歌うことにより、学習意欲を喚起することができたといえるであろう。

イ. 指あそびを導入することにより、視聴態度を育てる。

指導者の方に注目して指導者の話すことを聴くということも、おはなしが視聴できるための重要な要素となる。そこで視聴態度を身につけさせるために、毎時間指あそびを行なった。指あそびは動作が伴う楽しいあそびなので、ことばの理解が伴わない児童や落ち着きのない児童も、遊んでいるうちに自ずと指導者の方に注目する態度が育ち、聴く力も伸びていくであろうと考えた。聴く力を伸ばすために、指導者のことばに反応して行わなければならないような指あそびをするように心掛けていた。児童はおはなしと同様にその日の指あそびは何かと期待するようになった。指あそびを始めると、児童の視線が一時指導者の方に集中することからも、指導者に注目させるためには指あそびは有効な手段であることがわかる。また指導者の動きにつられて（模倣して）指あそびを行っていた児童も、ことばに反応しなければならないような指あそびを繰り返すうちに、指導者のことばをよく聴いて動くようになってきている。指あそびは視聴態度を育てるのに適した教材である。しかし、ことばの理解が伴わない児童や、手指のコントロールがうまくいかない児童は活動意欲が高まらない時もあった。そういった児童に対する手だてや児童の実態に合った指あそびを開発していく必要がある。

ウ. 児童の実態に合ったおはなしを選ぶことにより、視聴意欲を高める。

児童がおはなしを視聴できない場合、主な要因としては次のようなことがある。

- ・題材が児童の実態に合っていなかったり、読み聞かせ方に問題がある等指導者に責任があるために視聴できない。
- ・ことばの理解が伴わないためにおはなしがわからず、視聴しても楽しくない。
- ・他のことに注意がそれやすく、落ち着いて視聴できない。

〈表1〉のように児童の視聴に関する実態にはかなりの幅がある。全員が楽しめるようなおはなしに共通している点は、同じような場面の繰り返しがあり、リズムカルでおもしろいことばが繰り返してでてくることである。このようなおはなしであれば、話の筋が追えない児童もことばの繰り返しを楽しみながら視聴することができる。本学級の児童には三歳児前後を対象としたおはなしが合っているようだ。

エ. 視聴に表現活動を取り入れることで、視聴意欲を持続させる。

ことばの理解が伴わない児童もおはなしの視聴が楽しめるように、視聴する際に表現活動（音声表現、身体表現等）を取り入れてみた。例えば『大きなかぶ』のおはなしであれば「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声を言わせ、かぶを引っ張る動作をさせながら視聴させる。おはなしの筋が理解できない児童もその場面には意欲的に参加できた。そして、次の場面でも表現活動をしようと思えば、おはなしを視聴し続けることになる。またおはなしの視聴から注意が離れた児童も表現活動をすることによって、おはなしに戻ることができた。話の筋を追いつつ表現活動の時を意識してタイミングよく行う児童もいた。表現活動を取り入れることに

おはなしきこう¹⁾

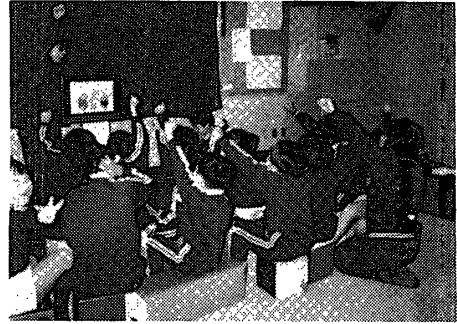
小谷野めぐみ 作詞
高橋興文 作曲

うしろに、くわいおはなし、やさしいおはなし、
どちかあ、どちかあ、しずかに。

よって、視聴意欲を持続させることができたといえるであろう。

オ. 場の設定を工夫することによって、おはなしの視聴に集中させる。

落ち着きがなく注意がそれやすい児童も視聴に集中できるようにするために、次のような場の設定を工夫した。まず視聴する時には写真のように大型の立方体積み木を椅子代わりに使用させ、自分の居場所を明確にした。多動な児童も居るべき位置がはっきりしているの、落ち着いて学習できるようになってきた。



また、指導者の背景を黒幕で覆ったり、教室のカーテンを閉めて絵本や紙しばいに照明をあてる等、児童の視線を集中させるような雰囲気づくりを行なった。注意がそれやすい児童も余計な刺激が除かれているのでおはなしの視聴に集中しやすくなった。周りにものが置いてあったために視聴の途中でそのものに気をとられてしまうようなことはよくあることで、おはなしの視聴が楽しめる段階に達していない児童にとっては特に環境を整えることが大切であると考えた。

カ. 語り方を工夫することによって、視聴意欲を高める。

語り手の声の大きさや調子も、視聴環境の中の重要な要素である。児童の反応や感動を受けとめながら、おはなしの中にそれらを実現して児童に返すように心掛けている。おはなしへの興味がそれた児童にことばがけをすることによっておはなしに戻ってきたこともある。これからも視聴意欲を高めるような語り方を工夫していきたい。

キ. 視聴後に表現活動をするによって、おはなしの理解を深める。

理解や表現の実態にかなりの幅がある16名の集団に対しておはなしの視聴後に、登場人物を挙げさせたり話の筋を言わせたりすることに重点を置いた学習は、おはなしの楽しさを半減させるものであると考える。前述したようにおはなしの楽しさを味わわせることをねらった時間であるので、児童が意欲的に取り組める表現活動をするによっておはなしの理解を深めてはどうかと考えた。この場合の表現活動とは、簡単な筋を追った劇あそびであったり、場面をとりあげたごっこあそびであったり、おはなしの中にでてくる歌を歌ったり踊ったりする活動である。指導者の一方的な発問に答えるのと違って、児童の活動が主となるので、児童は生き生きと学習する。ことばと事物や行動が結びついていない児童には、理解を深めるのに有効な学習であると考えた。また、毎時間の表現活動が、クリスマス会の劇や学芸会の劇につながっていく一ステップであると考えている。

③指導事例——『3びきのこぶた』——

自作の紙しばいで『3びきのこぶた』を指導した。既存のおはなしではオオカミが家を吹いて壊すが、吹くのに加えて足を踏みならして壊すという表現活動を取り入れたおはなしに変えている。右の指導過程には学習過程と児⑫に焦点をあてた指導の手だてを書いている。児⑫が指導の手だてに対してどのような反応をしたかを中心に述べてみる。

児⑫の視聴に関する実態は4月の段階と現在でもあまり変化は認められない。(表1)参照)左手にマヒがあり、発語はほとんどみられないが、指さしや動作による反応ができる児童である。

学 習 過 程	児⑫への指導の手だて
1. あいさつをする。	3. 児⑫が活動しやすい指あそびを設定するとともに、声かけをすることによって活動意欲を高める。 4. 吹く、足を踏みならすという児⑫が表現できる表現活動を取り入れることによって、視聴意欲の持続を図る。 児⑫はクラスの児童と一緒にわらの家を作る。 吹く、足を踏みならす、追いかけるといった表現活動がはっきりしているオオカミの役に指名することにより、劇あそびに意欲的に参加させる。指導者は指示をひかえて、もう一人のオオカミ役である児⑫とともに動くようにさせる。 ●オオカミのしっぽを用意したり、オオカミの歌を歌うことでその気にさせる。
2. テーマソングを歌う。	
3. 「ひげじいさん」の指あそびをする。	
4. 「3びきのこぶた」のおはなしを楽しむ。	
紙しばい 視聴 動作 吹く 足踏み わらの家 木の家の家 こぶた オオカミ	5. できる後片づけは自分でさせる。
5. 後かたづけをする。	
6. おわりのあいさつをする。	

ア。「ひげじいさん」は児⑫が取り組みやすい指あそびであったか。また、ことばがけによって指あそびをしようとする態度が高まったか。

「ひげじいさん」は片手だけでも十分遊びが楽しめる指あそびである。ゲンコツの手を顔の各部位にあてるという課題は児⑫に適している。児⑫は他児がするのをおもしろそうに見ていた。ことばがけによってゲンコツをつくったものの、手の動きはあまりみられず、そばについていた指導者が手をそえるような形となった。そこで児童の前に出して取り組ませたところ、歌に合わせて正しく手を動かすことができた。児⑫の場合、ことばがけだけでは意欲をひき出すことができなかつた。児⑫の意欲を高めたのは、友だちに見てもらっているという思いであった。

イ. 吹く、足を踏みならす表現活動を取り入れることによって、視聴意欲が持続できたか。

表現活動のうち足を踏みならすのはタイミングよくできていた。視線が他にそれることも少なく、最後までよく視聴できた。

ウ. オオカミ役をすることで、劇あそびに意欲的に参加できたか。

2年前のクリスマス会劇でオオカミ役をしたことをよく覚えており、吹く、足を踏みならす、そしてオオカミの手の恰好をしてこぶたを追いかけるという一連の動作が指導者のことばがけがなくてもできた。喜びの声をあげながらこぶたを追いかけている児⑫の生き生きとした姿が印象的であった。

2 考 察

指導の手だてに関する考察は各項で述べてきたので、ここでは〈表1〉の児童の視聴態度の実態に焦点をあてて考察する。

〈表1〉の中の○の児童は実態にあまり変化がみられなかつた児童である。視聴態度の実態の中には理解という要素が多分に含まれており、理解が伴わなければ、次の段階になかなか移れない。その例が児⑫、⑬の場合である。このような児童には、同じおはなしを年に何回か与え、繰り返すことによって理解を深めていく指導が必要である。前述の『3びきのこぶた』において児⑫が意欲的に学習できたのも、何回も視聴したことのあるおはなしだったということが大きく影響していると考える。



◎の児童は大きな変化が認められた児童である。児①、⑩は絵本が好きで、「おはなし」の時間を楽しみにしており、時間の終わりに「もう一回見せて」といつてくる児童である。そのようなおはなし好きな児童にどのようにしたらなるのか、児⑭の例で考えてみたい。児⑭は4月の段階では指導者がそばについていないと落ち着いておはなしが視聴できないような児童であった。現在積極的に絵本を読んで楽しむようになったのには、理解できる力が身についたということが大きい。わかるからおもしろい。おもしろいから視聴しようとするのである。しかし、理解力が十分に備わっていてもおはなしに親しもうとしない児童もいる。そこでおはなしに親しめるような環境が整っているかどうか問題となる。児⑭の場合学校での図書室通いに加えて、親が積極的に絵本を与える等の環境が整えられていったのが理解力とうまく合わさって、おはなし好きの児童に育っていったと考える。週に一時間の学習では理解力を身につけさせることはあまり期待できないが、おはなし好きの児童を育てる環境の一構成要素として「おはなし」の時間をとらえている。いろいろなおはなしに親しませることによって、おはなしを聴きたい、見たい、読みたいという意欲を導き出す触発材となるような「おはなし」の指導を今後も続けていきたい。

2. 日常生活場面でのことばの指導（高学年）

音声言語、いわゆる話しことばが我々の生活の中で最も多く利用されていて、気持ちの伝え合いが成立していると思われがちだが、児童の生活の中には話しことば以外での伝え合いが主となることもしばしばであり、身振りなどの具体物に似せたものを使った方がよく伝わることを経験することは多い。

(1) 写真、絵を利用して

話しことばでの指示をして行動できたので、内容の理解はなされていると思っていると、場所が変わると全く動けなかったりすることがある。その時にいくら同じ指示を繰り返しても、却って児童を混乱させるだけである。指示する時に、ことばによる指示だけでなく身振り、絵を描きながら話すことで、行動の展開がスムーズになることを経験的に知り得てきた。

さて、身振りと絵（写真）を比較すると次のことがいえよう。

身振り………事象と似ていたりそのものであるため、伝達手段として成立しやすい。その場ですぐに使えるという即時性がある。誰にでも、どこでも通じるという点では配慮を要する。

絵（写真）…事象と似ている点は身振りと同じ。数が増加すると紛らわしくなるところはあるが、瞬間に消えず視覚的に持続性があることが大きな利点。それゆえ、話しことば、文字への発展は図られやすい。即時性は身振りと比較して劣る。

このような絵や写真の特性を生かし、日常生活の中でことばの理解、主として指示の理解を促すことを目指した指導を考えてきた。

絵、写真は学校だけでなく家庭でも手軽に用意できる素材といえよう。日常生活の場面に応じて準備し、家庭との連携のもと指導していくことを留意している。

(2) 児童の実態について

本学級（養護学級高学年組）の児童のうち、新しい場面への適応やその場に応じた行動がとれにくいなど、指導者側の指示の手段に欠落しているものがあるを感じていた児^⑬についてのべる。

動作模倣・身振り	写真・絵の弁別	指示の理解	集 団	発 語
手遊びなど音楽を伴った動作模倣を好む。そばでの見本動作がある。描いた人の顔のことを尋ねると、その人の方を指さす。	学級の友人、動物、食物、乗物などの写真や絵を見て指導者が言ったものを選んで取れる。	学級内での行動はことばによる指示でできることもある。他の児童の動きを待って動きはじめることも多い。	集会等大きな集団に入った時は下を向いて動かなくなる。学級内だけでなく他の児童、教師への挨拶をする。	家庭等慣れた場所では、人の名前、物の名前などの発語はあるが、発音は不明瞭である。

(3) 指導のねらい

- ・ ことばによる指示を写真や絵を手がかりに理解させ、次の行動に見通しを持たせる。
- ・ 写真、絵に文字を重ねていき、文字を理解させていく。

(4) 指導方法、経過（87年11月～88年2月）

生活場面を利用して指導の場を設定していくことを主に考えた。

① 写真、絵カードのかかるたとり

写真はあとで黒板等に貼ることを考えて、カードケースに入れ、マグネットをつけた。それを一枚ずつ指導者が言ってモデルを



写真カード

示しながら並べる。一緒に言った時はしっかり賞賛する。10枚程度並べて指導者が言ったもの
 をかるた取りの要領で取っていく。写真は場所にかかわるもの（音楽室、図工室など）を重点
 的にとりあげた。慣れてきたら取ったカードを並べて発表させるようにした。

② 朝の会「今日のよてい」

学習過程	指導上の留意点
1 朝のあいさつをする 呼名 ⑬の呼名 カレンダー	1 着替えが終わっていない児童が いる時は、「今日の歌」を うたって待つ。 ⑬に人前での発言の場を 継続して用意するために、当 番の呼名のあと呼名をさせる。
2 今日のよていを知る 活動内容 場所	2 よていの内容について児童 の理解を促すために、黒板に 絵を描いたり、実物を使って 操作するよ うにする。 (例 しんたい そくてい)
3 昨日の話を発表する 発表 質問 日記帳 連絡帳 自考分 えてで 指導者の介	3 日記をもとに発表するよう にするが、保護者からの連絡 帳をもとに指導者が質問をす ることで、話題が豊かになる ようにする。 ⑬児童から質問の発言があ った時に、指導者がゆくりと くり返して話したり、動作化 をすることで伝わりやすいよ うに配慮する。
4 おわりのあいさつをする	

朝の会の流れ

朝の会は左のような流れで設定している。今日のよていの
 時には学習活動を撮影した写真カード（写真）を順に提示し
 ていった。児⑬の活動としては、呼名カード（写真）による
 呼名、写真カードを黒板上に再構成することを毎日設定して
 いった。授業後の移動の時に黒板の前に一緒に行き、カード
 を指しながら指示することを続けた。カードの前に行って指
 導者と確認することが定着しつつある。

又、その日の主な生活活動については、黒板に学級児童が
 登場する絵を描きながら伝えることで理解を促した。絵は児童
 の顔のカードを用意しておき、動きを描き加えていったので、
 児童の期待感を高められている。

予め活動を知らせておくことで行動の切り替えがスムーズ
 になることをねらっているのだが、翌日のよていへの理解も

促され、尋ねると答えてくれることが多くなった。

③ 給食の配膳分担決め

自分の希望を伝える、希望が重なった時に調整で
 きることをねらって分担を決める時間を設定してい
 る。顔のカードと給食のメニューの絵（写真）を結
 びつけていくことで話し合いの経過をつかませ、決
 めたことをあとで再確認できるようにした。児⑬は
 数の指導とのかね合いから牛乳を担当することが多
 かったが指導者がわざと牛乳の担当になり、他のメ
 ニューになってもスムーズに配膳できている。

(5) 考察

指導を開始して時間もたっておらず、現在継続中であるが次のような変容がみられる。

① 発語数の増加

かるたとりを開始して、取れる枚数の増加に従い指導者の口元を見て、まねて言おうとする
 態度がみられるようになった。朝の会のよていの時も同様である。又、帰りの会で一日のこ
 とを絵にすると「もちつき」「まめまき」と話してくれることが多くなった。

② 他の児童との遊び

学級の中では、誰かの行動を見て動くので他の児童にリードされることが多かった。発語が
 増加し「〇〇くんが〇〇言った」と認められるようになったこともあってか、合同教室での自
 転車遊び、校庭でのサッカーなど積極的に活動することがふえてきている。

③ 指示の理解

前述のように、写真や絵を手がかりにして指示を理解しようとする態度は育ってきており、
 場所の移動などの混乱は少なくなってきた。これをベースにして、写真、絵のかわりに即
 時性のある身振りを手がかりとしたり、文字を重ねていくことをはじめてもよいのではないか
 と思われる。



児⑬用の呼名カード



顔のカード

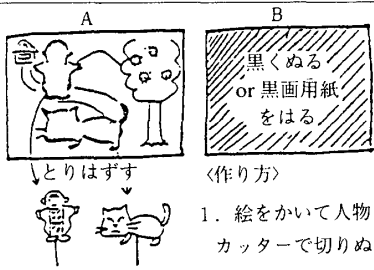


よてい表

※ 資料——教材・教具アイデアメモ——

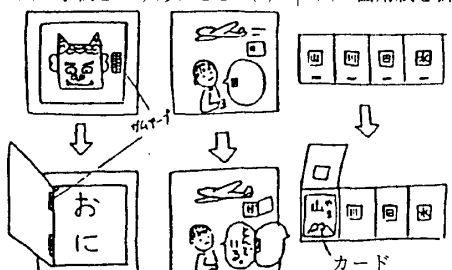
教材・教具アイデアメモ

No. 1

教材・教具名		紙芝居
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物、動物などを画面から取りはずせるようにして、ペープサート、型はめなどに活用する。 	
教具の解説	 <p>とりははずす</p> <p>ペープサート</p> <p>黒くぬる or 黒面用紙 をはる</p> <p>〈作り方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 絵をかいて人物をカッターで切りぬく。 2. AにB(裏紙)をはる。 	
使い方・指導例	<ol style="list-style-type: none"> (1)劇づくりの指導で 普通の紙芝居のようにして子どもたちに見せ、そのあとで場面ごとに人物をとりはずし、ペープサートにして、具体的な動きなどを表現する。 (2)型はめパズルとして とりはずした人物などをもとの台紙にあわせてはめる。 	

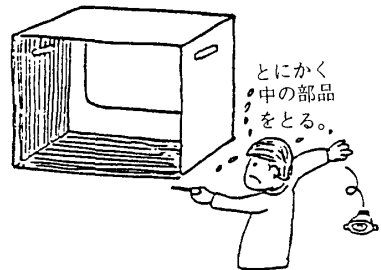

教材・教具アイデアメモ

No. 3

教材・教具名		トビラつきのカード
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> トビラを開いたらなにかがあるかという期待をもたせ、トビラを開くという操作の楽しさを生かした。 机の上でも使えるし、掲示しておいても使える。 	
教具の解説	<ol style="list-style-type: none"> (1) 厚紙をはりあわせる (2) 画用紙を折る (3) 画用紙を折る  <p>カード</p>	
使い方・指導例	<ol style="list-style-type: none"> (1)絵と単語を結びつける指導 トビラ絵、トビラの中—単語 (2)絵を見て基本文をつくる指導 ～ガドウスル、～ガドンナダ、～ガナンダ (3)漢字の読みの指導 	

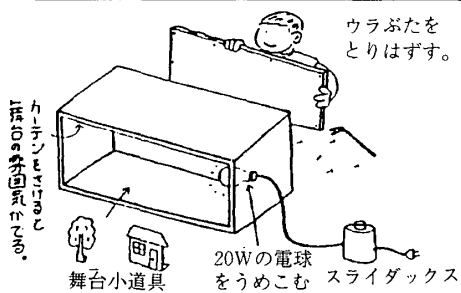
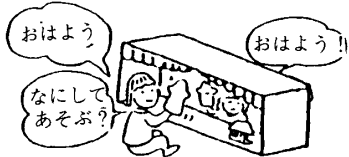
教材・教具アイデアメモ




No. 2

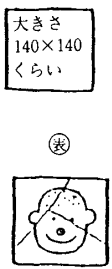
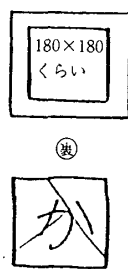
教材・教具名		テレビ
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 使えなくなったテレビ受像機の中の部品をすべてとりはずして、子どもが顔を入れて話したり、スライドを映写したりする。 	
教具の解説	 <p>とにかく中の部品をとる。</p>	
使い方・指導例	<ol style="list-style-type: none"> (1)スライドを写す。 <p>☆暗幕がなくても比較的よく見える。</p>  <p>※テレビのガラス面に内側からトレッシングペーパーのようなものをはること。</p>	

教材・教具アイデアメモ

No. 4

教材・教具名		人形劇の舞台
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 木製の箱(リンゴ箱、石炭箱、ユニットボックス etc.)の底の部分を取りはずして、両方から向き合ってやりとりができる舞台にする。 	
教具の解説	 <p>ウラぶたをとりはずす。</p> <p>20Wの電球をうめこむ スライダックス</p> <p>舞台小道具</p>	
使い方・指導例	<ol style="list-style-type: none"> (1)向かい合ってはなしができる人形劇舞台  <p>おはよう</p> <p>なにをなさる?</p> <p>おはよう!!</p>	

教材・教具名		おはなしスライド	
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 自作の紙芝居をもっと有効に活用し、保管するために、スライドに複写し、あわせて、音声テープを編集すると、市販のスライド教材と同様の活用ができ、劇化の観賞教材や物語の視聴教材として使える。 		
教具の解説	(1)紙芝居を作る。	(3)音声テープを編集する。	
	 (2)カラースライド用フィルムで接写する。 	 ※音声編集には児童にセリフ・ナレーションを言わせたり、音楽効果のレコードを使って物語の雰囲気を作る。	
使い方・指導例	(1)自作スライドライブラリー (紙芝居をスライドにしたもの) ・劇化指導のために作製した紙芝居をスライドにしたもの ◎かさじぞう ◎ないた赤おに ・だいこんとにんじんとごぼう ◎てぶくろ ・やくそくを守ったインディアン ◎南の島の6びきのねこ ◎にんにん・おとなになつたでござる ◎ちょうふく山の山んば		

教材・教具名		文字パズル	
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> パズルとしての遊びのおもしろさ、完成までのクイズ的な抵抗、完成の成功感などがあり、遊びとして活用できる。 		
教具の解説	カード (厚紙)	枠 (厚紙かダンボール)	
	大きさ 140×140 くらい 	180×180 くらい 	
使い方・指導例	(1)ひらがなに興味を持ちはじめた子ども ・絵の方をだして与えて完成させたのち、裏返させて「〇〇くんの〇」と言わせる。 ・絵の一部、文字の一部を見せ、なにであるかを考えさせたのちに完成させてたしかめさせる。 ・何組から床にばらまいたのち、ひろって完成するゲームにする。		